

くまもと面白漫遊記

～宮島広報特別委員のおすすめのこの町・この人～

No.8 芦北地区

**幸せだったと思える人生
それを支え、その居場所を作ることが
私たちのテーマなんです。**

～新しい水俣の文化を福祉の立場で まどか園理事長・萩嶺浄円さん～



社会福祉法人 照徳の里
精神障害者生活訓練施設
まどか園



理事長・萩嶺浄円さん

萩嶺さんを「こころの病気」と向かい合せたのは、何だろう？ ボランティア活動30年のキャリアか、お寺に生まれ仏教と出会った運命によるものか、心臓を患った時にめばえた人生観か……。インタビュー - の最中、それをずっと考えていた。しかし、そんな事は萩嶺さんにとって、さほど重要なことではないのである。

大事なのは、夢は必ず実現できるということ、そして……。

水俣が好きだということ……。

「こころの病」を持つ人の居場所をつくりたい…。 脱サラの夢がここに建つ。

水俣市街地から車で5分、水俣湾の眺めが一望できる月浦地区の一角に、今年7月、「社会福祉法人照徳の里 精神障害者生活訓練施設 まどか園」が開園した。精神障害者生活訓練施設（援護寮）とは、自立して日常生活を営むことができない人に対して「生活の場」を提供し、社会生活に適応させるための訓練を行う施設。《まどか園》は、熊本県内3番目の生活訓練施設となる。身体障害者、知的障害者、高齢者等の施設に比べ、精神障害のケア施設の存在はあまり知られていないのは、これまで、精神障害、いわゆる「こころの病気」は病院で治すものという概念によるものである。



近年、社会参加ができない、ひきこもりなど精神の不安定さ、ストレスによる障害が取り沙汰される中、精神医療は入院中心の治療体制から、地域におけるケア体制に大きく変わろうとしている。その中で、今回、訪ねたこの《まどか園》は地域の中で「こころの病を持つ人」と真正面から向かい合い、福祉の立場から「新しい水俣の文化」を築いていこうという熱い思いに満ちている。脱サラ1年生、萩嶺浄円理事長（49歳）の夢がここに建ち、そして、さらなる夢に向かってスタートした。

【精神障害とは…】

一番多いとされるのが「精神分裂病」。青年期から中年期という人生の活動的な時期に発症することが多く、およそ120人に1人の割合（約0.8%）で発症すると言われており、発生率から見て決して希な病気ではありません。その原因は、よくわかっていませんが、現在、脳内情報伝達機能の異常によると考えられています。

薬物療法とリハビリテーションにより、症状が軽減し、服薬を続けながら安定した状態で過ごされている人、また、社会復帰施設等、周囲からの援助を受けながら自立している人もたくさんいます。

症状としては、幻聴・幻視・幻覚・妄想・思考のまとまらなさ等の〔陽性症状〕、感情面の鈍さ、表情の乏しさ、ひきこもり、無気力状態等の〔陰性症状〕に分けられます。精神分裂病などのこころの病気を抱える人は、ストレスに弱いと考えられ、ストレスに対処するためには、日常の服薬を欠かさないことが大切です。

社会参加・復帰に向けては、医療、福祉の両面から様々な事業、制度、施設があります。

くまもと社会参加ハンドブック 第9版参照
(発行：熊本県精神保健センター)

宮島委員 Q：脱サラをしての「まどか園」設立とお聞きしましたが、萩嶺理事長を動かしたものは？

萩嶺理事長 A：昨年の12月までNTTに勤めていました。
30年間、ずっとボランティア活動をやっていました。水俣病や（在宅）福祉に関わることで、熊本県ボランティア連絡協議会の立ち上げにも参加しました。
その活動の中で、いろんな人と出会ったり、福祉についていろんな事を考えたり…。そこで、思ったのは水俣病の患者さんや精神障害の方、つらい時に話す場所がないんです。病院は何というか、敷居が高いと言うか…。
話すことは、大切なことです。話す場所がないから、「とじこもり」やストレスが容量オーバーになるのです。
施設を作ろうと思った決定的な要因は、7年前、私が心臓を悪くして入院した時でしょうか。いろんな方が「がんばれ！」と励ましてくれました。その中には、障害を持っている友人もいました。
「人生とは？福祉とは？」いろんな事を考えたんです。



入所者の個室

宮島委員 Q：それが、萩嶺さんのテーマに？

萩嶺理事長 A：人生には苦しいことがたくさんあります。特に障害をもった人が生命を終えるとき「自分の人生は幸せだったよ。」と言えるそんな関わりをしたいと思います。それが私たちのテーマでもあるし、「まどか園」なのです。



食堂

【社会福祉法人照徳の里 精神障害者生活訓練施設 まどか園】

所在地：水俣市月浦269番4

☎ 0966-61-1000

FAX 0966-61-1001

施設概要：入所者 最大20人

個室制・風呂・休憩室、食堂・喫茶室など完備

職員：5名（精神保健福祉士を含む）

入所期間：2年（延長1年）

宮島委員

Q：精神障害者生活訓練施設とは？

萩嶺理事長

A：病院や自宅から、地域に出て自立した生活を送りたい方の場所です。生活リズム・金銭・服薬・日中活動・対人関係など自己管理ができる方法を一緒に考え、2年の期間で、地域で生活する準備を行うところです。

私はこれまで水俣病の患者さんや色々な障害を持った方と接してきましたが、精神障害には難しい問題があります。精神障害を持った家族がいると隠し、親戚にも言えない状況で、病院もなるべく遠くへかかたりします。

その様な中で、私が私の立場でできることを考え、精神障害者の方を「福祉」の立場で支えられないかと思い、「このころの病」を持つ人が居られる居場所を

水俣につくりました。私たちはその「場」を提供し、社会復帰のお手伝いをさせていただいています。



宮島委員



萩嶺理事長

宮島委員

Q：精神障害者における福祉の体制は？

萩嶺理事長

A：身体障害者や知的障害者などの福祉環境に比べると、遅れています。こころの病を持つ人は、全国で217万人といわれ、対するベッド数は33万。いかに待っている人が多いか、分かります。
施設の一人当りに平均割り当て面積は、知的障害者の場合で26.6平方メートル、精神障害者の場合は14.9平方メートルであまりに狭い。国の補助金も含め、精神障害の福祉環境を改善し、もっとよくしていかなければと思います。

精神障害者の「平均在院日数」(入院)を見ても日本の精神障害を取り巻く環境がわかります。

1996年調査で、日本の330.7日に対して、アメリカは8.9日、フランスは7.3日なんです。

つまり、日本の場合、精神障害者の方は一年のほとんどを病院にいるということです。

宮島委員

Q：ところで、「まどか園」の名前は？

萩嶺理事長

A：私の名前の「浄円」の「円」から「まどか」と法人設立の事務手続き上、仮称で付けていたのですが、水俣市の前助役の有村様が「この名前いいですね」との一言で決まりました。
また、まどかには「やすらか」とか「穏やか」という意味があります。



宮島委員

Q：「まどか園」では、どんなケアを？

萩嶺理事長

A：こころの病を持つ人は、自分の中で意識が膨らむ、ストレスに弱い人です。私は、繊細な方、優しい方が多いのではないかと考えています。



センサー付トイレ

こころの病を持つ人は、特に対人関係が苦手な人が多いので、施設をオープンにし、一般の方に喫茶を利用して頂くことで自然に対人関係ができるよう支援しています。また、ひとなつこい犬がいますので、アニマルセラピーとしても活躍していますが、小学生からお年寄りの方までわざわざ会いにきてくださいますので、大きな貢献をしています。



喫茶室

生活のリズムを取り戻し、食事をきちんと取り薬を忘れずに飲むなどの反復訓練と一人一人のケアプランを立てそれに沿った支援を行っていますが、就労が一番難しいので「まどか園」の敷地内に「手焼きせんべい作り」を計画中です。この作業がリハビリとなり就労支援になればと思っています。

水俣が大好きです。 だから、友人、市民、みんなで水俣の新しい文化を作りたい…。

宮島委員 Q：萩嶺理事長の「福祉」に対する思い、その原点は？

萩嶺理事長 A：「浄円」という名でお分かりかと思いますが、私は寺に生まれました。久木野の「本昭寺」という寺です。寺は次男が継ぎましたが、学校では仏教を学びました。

昔は農家が忙しい時、母が子供を預かり季節保育所を始め、それが市立わかば保育園となり現在に至っていますが、お寺には色々な人が来ていましたので、いつも誰かが居るのが当然という環境の中で育ちました。だから「人が好き」なんですね。そういう意味で父と母の影響は大きいです。人にかかわるボランティアの原点はそこにあるのかも知れません。「まどか園」は色々な人が集まる「家」にしたいと思っています。

宮島委員

Q：萩嶺さんが今、「水俣」で思うことは？

萩嶺理事長

A：水俣が大好きなんです。

出たいと思ったことはありません。

友人、市民、みんなで新しい水俣の文化を一緒になって作っていききたいですね。

その中で、私は「福祉」に関わることをしたいのです。

みんなが自分の立場で水俣のことを考えれば、水俣の新しい文化につながると思います。

今は点と点、これを結べば、やがて線になり、面になり広がっていきます。

いろんな展開ができそうな気がします。

大切なことは、「夢」を持つことです。

「まどか園」は私の夢でしたし、私でも夢を実現できたのですから……。



萩嶺理事長の言葉は、人に優しく説得力がある。「人が好き・水俣が好き」という言葉がひときわ光って、萩嶺さん自身の「こころ」がその言葉に集約されているようでもある。「夢」を追いかけるには、かなりのエネルギーが必要だ。ましてや、施設を立ち上げるとなると、その労力は計り知れないものであっただろう。萩嶺さんの「まどか園」設立の自信が未来の「水俣」への熱い思いと溶け合い、新しい水俣に文化へと結集されようとしている。

萩嶺さんの次なる「夢」が、「まどか園」という「家」から発信されようとしている……。